なみまるくん

うみ・なかま
コミュニケーション

Hokkaido Gyoren Magazine Number 285 July 2012

7

北海道ぎょれん

特集 第50回北海道漁業協同組合長会議

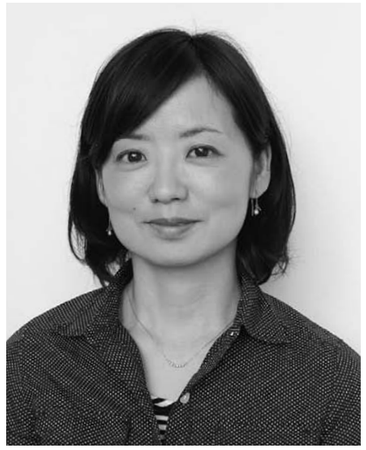
特集 第63回ぎょれん通常総会

北海道ぎょれんウェブサイト
www.gyoren.or.jp

海・ひと・夢 インタビュー

知ることに前向きに、そして手づくりの良さを伝えたい

料理研究家　坂下　美樹さん



浜のおかあさんのレシピとの出会い

私の経歴は少し回り道で、社会人になってから、やっぱり料理の勉強がしたいと思い、26歳のときに藤女子短大の栄養科に再入学しました。卒業後は、同じ料理研究家である母（坂田蓉子さん）の仕事を手伝いながら、栄養士の仕事などで経験を積み、独立しました。ちょうどその頃にいただいたのが「浜のおかあさん海の料理本」監修のお仕事でした。浜のお母さんが作られた50品ものお料理を本にする、とても規模の大きいお仕事をいただいたと感じました。浜のお母さんがつくったときとほぼ同じ味やイメージが伝わるようにと、一生懸命頑張ったのを覚えています。浜のお母さんのお料理は豪快で、素材をどのように使えばおいしいかを一番知ってらっしゃるので随分勉強にもなりました。本が出来上がった時には、自分の本が出たくらいの嬉しい気持ちでしたね。

「簡単レシピ」だからこそ、多くの方に知ってもらえる

これまで、ぎょれんさんのお仕事でほたて・秋鮭・昆布を使ったお料理の依頼を数多くいただき、「とにかく簡単に作れるものを」とのオーダーをいただきます。これは時代の流れとして正しいことだと思います。「簡単さ」には二つあって、お料理があまり得意でない人に簡単に作ってもらうことはもちろんですが、これまで一生懸命基本に沿ってお料理をしていた人に対しても「実はこんなに簡単にできる方法がありますよ」と知ってもらうと、もっともっと使ってもらうことが出来る、大変広い入口だと思います。簡単でもおいしく作るためには絶対はずしてはいけない手順もありますし、簡単でも私なりの何かひと工夫を、といつも考えています。魚は本当に奥が深くて、伝統的なお料理にも良いものがたくさんあります。最近、生身欠きにしんをじっくり炊いたり「昔ながらの味」を一から勉強しなおすことも大事にしています。もっと多くのことを私自身も知りたいですし、皆さんに伝えていければいいなと思っています。

知りたい、もっと勉強したい気持ちが原動力

「手づくり」がもっと増えてほしいといつも思っています。家庭での味はずっと覚えているものですから…。私が提案したレシピを見て「作ったよ」と言ってもらえると、やはり励みになります。その一方で、知らないこともたくさんあると感じて、実は今、大学の通信教育で栄養学などを学びなおしているところです。このようにいつも動き続けること、時にはつまづくこともありますが起き上がると何かが見えてくる。基本はいつも前を向いて進んでいきたいなと思っています。

坂下さん考案のお料理を掲載したチラシは来月号のなみまるくんに折り込み予定です。お楽しみに！（編集部）

目次 CONTENTS

7 2012［July］No.285
なみまるくん

1 海ひと夢 インタビュー
料理研究家　坂下 美樹さん

2 特集 第50回北海道漁業協同組合長会議

5 特集 第63回ぎょれん通常総会

8 お魚殖やす植樹運動 植樹行事が開催されました

10 頭すっきり!! ブレイクタイム

11 浜の家族物語
歯舞漁協　桑野　純さん　ご家族

12 なみまるインフォメーション

15 浜のほっとニュース

16 おまかせ設計センター

17 浜だより

6月から昆布漁が始まった歯舞港

表紙の写真は、歯舞漁協の桑野　純さんご家族です。

特集1

第50回北海道漁業協同組合長会議

6月21日(木)、札幌市の第2水産ビル大会議室で、第50回北海道漁業協同組合長会議が開催されました。50回目の節目を迎えた組合長会議は、会議に先立って記念式典が行われました。

北海道漁業協同組合長会議50周年記念式典

第50回宣言を満場一致で採択

記念式典では、櫻庭ぎょれん会長が主催者を代表して挨拶した後、「将来における漁協の役割と漁業の展望について」と題して東京大学の加瀬教授が記念講演を行いました。続いて、銭亀沢漁協の柴田組合長が第50回宣言を読み上げ、満場一致で採択されました。第50回宣言は左ページの通りです。

平成24年度 漁協系統運動功労者表彰

八雲町漁協の大林弘志組合長(左)と散布漁協の浜進組合長(右)が表彰を受け、安藤北海道信漁連会長から表彰状および記念品が贈呈されました。

第50回北海道漁業協同組合長会議宣言(全文)

私たち、北海道漁業協同組合長会議は、本日、第50回目の会議を開催した。

昭和38年、本道漁業が構造改革を通じて沿岸漁業の近代化を図ろうとしている転換期に、漁協系統の課題および漁政対策について全道的運動を展開するため、全道の漁業協同組合長が一堂に会し、第１回目の会議を開催したことを契機に、爾来(じらい)50年間の歴史を重ねてきた。

この間、「漁業災害補償法」の実現をはじめ、「水産基本法」の制定や200海里適用に伴う減船補償対策、韓国漁船等の外国漁船対策、千歳川放水路計画の白紙撤回、漁業経営安定対策としての「積立ぷらす」創設、資源管理型漁業や栽培漁業の推進対策、「一斉休漁」による燃油高騰対策など、漁業の存続に関わる危機に立ち向かうため、毎年、浜の総意に基づき決議を採択し、要請活動による政策要望を行い、協同運動の旗印のもと北海道漁民の一致団結した力を結集し、諸課題解決に取り組み、幾多の困難を乗り越えてきた。

漁業を取り巻く環境は、先行き不透明感が漂うなか、水産資源の減少、燃油等経費の上昇、組合員の高齢化・後継者担い手対策のほか、ＴＰＰ等貿易自由化問題、さらには福島原発による放射性物質風評被害問題など依然として厳しさを増しており、漁業者自らの努力では解決し得ない問題が山積している。

このため、私たちは、国・道に対し、水産業の発展に資する基本的政策の提言・要望を行うとともに、先人からの伝統文化と資源管理型漁業をしっかりと受け継ぎ、自らが考え、努力し、協同組合の精神を再認識して、漁協系統運動を実践していくことを通じて、新たな時代に立ち向かい一丸となって取り組んでいく決意である。

更に、2012年は国連が定めた国際協同組合年（ＩＹＣ）にあたり、世界の協同組合の一員としても協同組合原則の基本に立ち還って、協同組合陣営との連携を図り、漁業協同組合運動の新たな歴史を創る実践者として、相互扶助、自主自立の運動展開を強力に推進していかなくてはならない。

私たちは、これからも海の恩恵と自然の恵みに感謝しつつ、国民への安全安心な水産物を安定供給する使命を果たすため、将来ともに希望のもてる漁業経営の確立と豊かな漁村、地域社会の発展を目指して、食糧生産基地としての北海道漁業の未来創造のため、全力で邁進していくことを宣言する。

平成24年６月21日
第50回北海道漁業協同組合長会議

記念講演

「将来における漁協の役割と漁業の展望について」

東京大学社会科学研究所
教授　加瀬　和俊 さん

現代社会においては、協同組合の理念が改めて見直されています。協同組合の理念とは、経済的な弱者が自らお金を出し合って経済事業を行い、生活と労働本位の社会を作っていくことにより発展していくことです。その理念は協同組合関係者によって正しく強調されてきた反面、外部からは「既得権を守ることを目的とした団体」であるかのように捉えられ、マスコミ等にもたびたび報道されています。そうした論調に対抗し、きちんとした協同組合の理念を社会で活かしていくため、漁協には次の４つの責務があると言えます。

まず「漁協組合員の結束を強化すること」。漁場利用規則や漁協事業の総合利用を当たり前とせず、新たな意味づけを与えながら組合員の総意にしていくことが必要です。

次に、「組合員へ経営指導とその方向性の明確化」です。組合員の経営を今後の漁業のあるべき姿に向けていくためには、漁協が地域の具体的事情に応じて経営指導していくことが重要です。適正価格でコンスタントに売っていく仕組みを組合員に浸透させていく必要があります。

そして、「漁場の有効利用の実現」です。組合員が減り漁場が空くことがあれば、その生産力を十分発揮できるよう取り計らう責任が漁協にあります。協同組合の理念に基づいて、必要に応じて漁業をやりたいという人にも開放していくのが望ましい形と言えます。

最後に、「漁業外との関係改善」です。海の有効利用が漁協の漁業権によって阻害されているという国民の疑念が、マスコミなど各方面からの批判に繋がっています。漁業権は、安定した操業をするため必要であるという点を明確にし、その正当性を国民に説明することが必要です。国民の認識を理解した上で、現場レベルでの必要性を主張していく必要があります。

第50回北海道漁業協同組合長会議

式典に引き続いて行われた第50回北海道漁業協同組合長会議では、柳谷組合長（白糠漁協）を議長に、今組合長（北るもい漁協）を副議長に選任し、議案を審議しました。

柳谷議長から昨年度の決議実行経過の報告が行われた後、今副議長が今回提出された議案の審査内容を説明しました。提出された議案は全て原案通り承認、決議実行方法は櫻庭会長に一任され、今後、国や道などの関係各機関に要請活動を行っていきます。

議長団を務めた柳谷議長（左）と今副議長（右）

北海道漁業協同組合長会議 決議事項

特別決議案　強い北海道漁業の確立について

方針1． 我々漁業者自らが漁業生産の維持増大に向けて、積極的に構造改革に取り組み、協同組合運動の原点に立ち還って、強い漁業・漁協経営の確立を目指す。

方針2． 水産食料基地としての北海道の漁業をさらに発展させ、安全安心な水産物供給の使命を果たすため、水産基本計画に基づく水産政策の推進と真に北海道漁業の実情に即した諸政策の実現を目指す。

決議項目1． 原発事故による災害対策

決議項目2． 漁業経営基盤強化対策

決議項目3． 水産物流通・加工・消費対策

決議項目4． 北海道周辺海域の豊かな漁業環境づくりの強化対策

決議項目5． TPPの断固参加阻止とWTO・FTA等貿易自由化交渉における水産物輸入対策

50周年記念事業について発表

同日正午からは、ぎょれん第一会議室において、記者会見が行われ、「記念誌の発行」や「漁業について国民理解を深めるラジオ広報活動」等の50周年記念事業について発表されました。また夕方からは、ホテルポールスター札幌で、記念祝賀会が開催されました。会場には、全道漁協・系統団体や行政から約250名が集まり、50周年を祝しました。

7月から道組合長会議のラジオ番組が始まります

7月7日（土）17：35からSTVラジオで、50周年記念事業「漁業について国民理解を深めるラジオ広報活動」の番組が始まります。週1回（土曜日17：35～）地区組合長会会長が順番に出演し、TPP問題や有害生物被害、食の安全安心対策等の漁政対策について、道民に訴えていきます。第1回の放送には、道組合長会議の柳谷議長（釧勝地区）が登場しますので、ぜひお聞きください。

特集2

第63回ぎょれん通常総会

平成23年度取扱高は2945億円、平成24年度取扱計画は2850億円

ぎょれん総会では、櫻庭会長が開会挨拶の後、ひだか漁協の梶川組合長が議長に選任され、10件の議案を審議しました。いずれも原案通り承認されました。

議長を務めたひだか漁協の梶川組合長

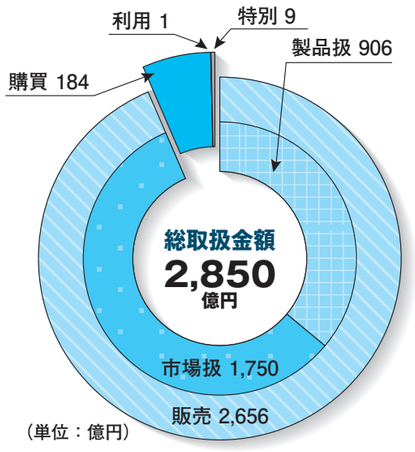
10件の議案全てが原案通り承認されました

櫻庭会長開会挨拶（要旨）

平成23年度は、我が国を震撼（しんかん）させ、甚大な被害をもたらした東日本大震災ならびに福島原発事故による混乱が続く中でのスタートとなりました。道内においても津波による空前の漁業被害の復旧対策に追われたほか、原発事故による水産物放射性物質検査や海外の輸入規制が強化されるなど、道産水産物の安全・安心を脅かしかねない事態となり、新たな対応を迫られました。

また、歴史的な超円高による輸出への影響が顕著となったほか、大震災後、鎮静化していた貿易自由化問題が急浮上したり、年末には漁業用燃油の免税措置廃止問題が山場を迎えるなど、中央要請活動もその都度要請内容が異なり、総じて多事多難な一年となりました。

平成24年度取扱計画



第63回通常総会　櫻庭会長　開会挨拶（要旨）

【平成23年度事業実績】

基幹魚種が軒並み減産するも、販売事業取扱高は計画・前年を上回る

本道の漁業生産は、基幹魚種を主体に水揚げ量が軒並み前年割れとなりましたが、浜値の上昇もあり、水揚げ金額は二千七百億円と六パーセント程前年を上回りました。

主要魚種のうち「秋鮭」は、当初予想に反して前年に続く減産となり、地域間格差が拡大しました。一方、浜値の上昇により全道の生産額は前年を上回りました。製品流通面においては、親製品は価格の上昇や超円高に加え、原発風評被害の影響もあって、中国向け輸出が大幅に減少しましたが、減産のなかで国内向けが堅調に推移したほか、消流が懸念されていた魚卵製品も市況が回復するなど、総じて順調に推移しました。

「ほたて」については、四年振りに四十万トンを割る水揚げとなる中で浜値が上昇し、生産額が前年を上回りました。製品流通については、香港向け干貝柱は比較的安定した動きとなりましたが、玉冷等は高値推移により国内マーケットの縮小を招くとともに、超円高の影響で輸出が停滞、総じて苦戦を強いられました。

櫻庭会長

「昆布」につきましては、天候不順等もあり、過去最低の一万五千トン台の生産に落ち込みました。消流面では、だし系昆布が依然として苦戦を強いられ、その他の昆布は減産を背景に製品価格が上昇、今後の消流面で課題が残りました。なお、空前の昆布の大減産を受け、本会としましては、昨年、生産漁協・関係行政機関を交えた「北海道昆布専門委員会」を立ち上げ、生産回復に向けた今後の対応策について協議を開始しているところです。

「一般魚種」は、いか・さんま等が増産となりましたが、ほっけ資源の悪化や魚種の地域間水揚げ格差も拡大傾向となるなど、生産面での課題が改めて浮き彫りとなりました。

本会としましては、この間、会員からの要望に応え、一般鮮魚対策の強化に取り組んで参りました。二十三年度においても関係漁協とのネットワーク構築による高付加価値化や新商品開発、大量水揚げ時の原魚処理・価格対策など、規模を拡大して実施し、一定の成果をあげることができました。また、原発風評被害対策の一環として、関係団体・行政と連携し、中国の香港・大連や台湾において取引懇談会を開催、ほたて・秋鮭などの道産水産物の安全性と消費拡大をアピールしました。以上、平成二十三年度は、流通環境が一変し、厳しい情勢下にはありましたが、製品扱・市場扱ともに、事業計画および前年を上回る実績をあげることができました。

購買事業については、大震災による石油製品の需給逼迫（ひっぱく）の事態に対し、全漁連との連携により、安定供給確保に努めたほか、中東情勢等の悪化による原油価格上昇に際しても、系統燃油価格の適正化に取り組みました。また、震災需要対応を含め、良質廉価（れんか）な「系統ブランド資材」取扱拡大による漁業コスト削減に取り組んだほか、購販推進委員会活動と連動した新たな試みとして、「系統ブランド資材評価推進委員会」を設立し、全地区で浜のニーズに対応した活動を開始しました。購買事業の取扱高は、燃油価格の上昇により、事業計画および前年を上回りました。

指導事業のうち、漁政対策については、国・道などに対し各種要請活動を行い、本道漁業の課題解決に総力を挙げて取り組み、一定の成果をあげることができました。とくに大震災の津波による空前の漁業被害対策については、道・系統団体による合同対策本部を核とした要請活動を強力に展開した結果、国等の予算措置が図られ、関係者の懸命な努力もあって早い段階での復旧の目処（めど）が得られました。被災した全ての浜が一日も早い、震災前の水揚げ水準回復を願うところです。

このほか、指導教育事業につきましては、漁協経営の健全性確保対策、指導監査や各種研修の充実に加え、浜と一体となった各種魚食普及・食育活動に取り組みました。環境対策については、新たな問題が浮上したアザラシ等の海獣（かいじゅう）被害対策のほか、各種環境保全対策に継続して取り組みました。

経営面においては、厳しい経営環境下にあって、水産関連企業においても廃業や経営破綻が相次ぐ中、債権管理の強化を図りましたが、消費地取引先一軒の自己破産による貸倒れ発生を余儀なくされました。改めて債権管理の徹底を図り、貸倒れの未然防止に努めて参ります。

また、昨年度から本会として組織を挙げて取り組んできた、環境ISO（アイエスオー）の認証・取得が実現しました。今後、直営工場部門を含め、継続して二酸化炭素削減などの環境対策に取り組んで参ります。なお、関連会社については、本会と一体となった事業推進と経営健全性確保に努めてまいりましたが、原料事情の悪化もあり、残念ながら直営工場一社が赤字決算となりました。

以上の結果、平成二十三年度の本会経営は、総取扱高は二千九百四十五億円となり、収支についても、貸倒引当金計上基準変更に伴う利益の計上もあり、税引前当期利益段階で、六億九千万円と、いずれも事業計画および前年度を上回る実績をあげることができました。

【平成24年度事業計画】

「強い北海道漁業の確立」に向け、組織を挙げて取り組みます

国際化が一段と進む中、本会は昨年度、グローバル戦略の強化等を柱とする、「中期的事業推進方向」を策定し、事業推進にあたることとしました。しかしながら、その初年度において東日本大震災・福島原発事故が発生、さらには歴史的な超円高に加え、貿易自由化問題が加速するなど、本道漁業を取り巻く環境が一変し、新たな対応を余儀なくされています。また、漁業生産面においても、生産回復対策が重要課題となっています。

本会としては、こうした急激な状況の変化を踏まえた中で、我が国の水産食料供給基地として「強い北海道漁業の確立」に向け、組織を挙げた取り組みが一段と重要であると認識しているところです。

漁政対策としては、全道組合長会議の決議を踏まえ、原発災害対策や水産物貿易自由化問題のほか、新たにスタートした水産基本計画のもとでの、本道漁業の実情に即した施策の実現など、更なる取り組みの強化を図っていきます。

水産物の流通は、世界的な需要増大により、資源争奪戦が一段と進んでおり、デフレ不況・低価格競争などで収縮する国内マーケットと拡大を続ける海外市場との間で「消費構造の二極化」が顕著となっています。販売事業の推進にあたっては、基本となる国内消費の安定確保と併せ、逆風下にあっても、需給調整機能としての対策的な輸出を併用しながら、関係団体との連携のもと、総合的な流通安定対策を更に拡充していく所存です。

また、中東情勢は、依然として不透明であり、国の燃油セーフティネット構築事業の拡充に向けた取り組みと併せ、漁協系統としての燃油価格安定対策を強化するほか、系統ブランド資材の普及拡大などによる漁業経営コストの削減にも継続して取り組んでいきます。

昨今、浜における協同組合意識の希薄化が指摘されています。折しも、全道組合長会議が半世紀を迎え、加えて本年は国連が定めた「国際協同組合年」でもあります。国際的にも協同組合の価値が見直され、評価されています。「一人が万人のために、万人は一人のために」という理念のもと、改めて協同組合運動の果たしてきた役割を再確認するとともに、北海道の浜が、漁協・系統組織に大同団結して、文字通り「浜が一枚岩」となって立ちはだかる難局を乗り切っていく必要があります。本会としましても、指導・経済連合会として、国際化の中で一段と厳しさを増している本道漁業の更なる発展のため、浜の負託に応え、最大限の努力を傾注していく決意ですので、会員各位の特段のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

北海道ほたて漁業振興協会が第40回通常総会を開催

開会の挨拶をする阿部会長

北海道ほたて漁業振興協会（会長・阿部紋別漁協組合長）は、6月21日に第40回通常総会を開催しました。会議では、平成23年度事業報告、平成24年度事業計画が満場一致で承認されました。

お魚殖やす植樹運動 植樹行事が開催されました。

6月7日（木）、石狩郡当別町・月形町にまたがる「道民の森」において、お魚殖やす植樹運動の植樹行事が開催されました。例年、北海道漁協女性部連絡協議会（以下、道女性部）が中心となって行われる植樹行事ですが、今年は北海道漁業協同組合長会議（以下、道組合長会議）の50周年を記念して各地区より漁協組合長会会長も参加し、関係機関を含め総勢77名が参加する大規模な植樹行事となりました。

明け方に降った大雨があがり、青空が広がった「道民の森」。午前10時、予定通り植樹行事が開始されました。

「道民の森」は道が所有する広さ1万2千ヘクタールの広大な森。敷地内にはキャンプ場や野外研修施設なども点在しますが、その大半が森林として管理されています。海へとつながる川も流れ、お魚殖やす植樹運動にはぴったりの場所です。

例年は、道民の森のなかの「お魚殖やす植樹運動記念の森」で行われている行事ですが、春の融雪時に記念の森につながる道路が崩れたため、今年は「エコチャレンジの森」での開催となりました。石狩北部森林組合の指導協力も得ながら、これまで多くの植樹を行ってきた道女性部を中心に、コープさっぽろ、道、系統団体、そして道組合長会議50周年を記念して、各地区から参加した漁協組合長の手によって、苗木が次々と手際よく植えられていきます。

植えられたのはミズナラ・イタヤ・ニレ、合わせて750本。植樹の目印としてピンク色のリボンが結ばれた苗木は強い日差しのなかまっすぐと立ち一面ピンク色の花を咲かせたようです。

参加者一同、苗木が大きく育ち、豊かな土壌をつくって、お魚を殖やす礎になることを願いながら、無事植樹行事を終えました。

敷地一面に植樹された750本の苗木。
無事大きく育ちますように!

主催者代表挨拶

ぎょれん　櫻庭会長

今年は道組合長会議50周年の記念植樹行事でもありますが、これまで植樹活動は、道女性部を中心に長きに渡り行われてきました。減少する水産資源、陸地・海洋の汚染に対する漁業者の危機意識の現れとして、昭和63年に道女性部の決議によって植樹活動が始まり、今年25周年を迎えます。その活動は高い評価を受け、全国の漁業者にも同様の活動としても広がりを見せています。北海道の植樹活動の合言葉は、「100年かけて、100年前の自然の浜を」です。今年25周年、あと75年は植樹活動を続け、北海道の豊かな自然を子や孫の代まで残していかなければならないと考えています。

今年ぎょれんからも若手職員を中心に数多く参加していますが、ぎょれんは今後も引き続き植樹活動の支援を行っていきます。本日は頑張って植樹を行っていきましょう。

櫻庭会長

平賀会長

道女性部　平賀会長

道女性部は、25年間ただひたすら「お魚が増えてほしい」その一心で植樹活動を続けてきました。それが皆様からの高い評価につながっていることを大変うれしく思います。昨年は国際森林年の「生き物にぎわいコンテスト」において、農林水産大臣賞をいただき、環境省からも活動内容を紹介する機会をいただきました。これからもきれいな川や海を目指して、関係者の皆様とともに植樹活動を行っていきたいと思います。本日は「どうか元気に育ちますように」の思いをこめて、一本一本丁寧に植えていきます。

地区漁協組合長会会長会議　柳谷議長

道女性部を中心に行っているこの植樹活動は全国的に高く評価されています。我々漁業者としてもありがたく、心強く、誇りに思っています。豊かな森林・川をつくることで豊かな海や漁村を築いていくことができると確信しています。本日は道組合長会議の50周年記念行事として、全道各地区を代表する組合長とともに参加をいたします。関係者への御礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

柳谷議長

植樹行事スナップショット

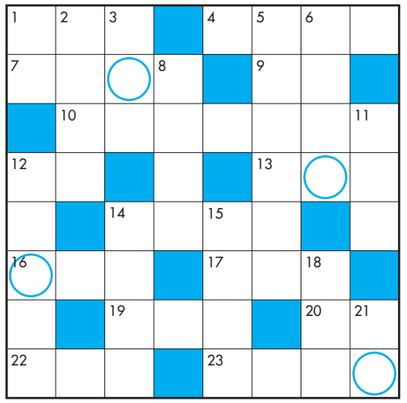
今年度の植樹活動は、この道民の森での植樹行事と全道各地での活動をあわせて
計16,639本が植えられる予定です。全道の皆様、おつかれさまです!

頭すっきり!!

ブレイクタイム

クロスワードパズル

次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。夏と言えばこれ！山や海で、バーベキューや天体観測などしながら自然を満喫できますよ。



タテのカギ

①京都や奈良のような歴史ある都
②「戸籍○○○○」「登記簿○○○○」
③TやYがある服
⑤美しい足のライン
⑥危険!岩の落下「○○○○注意」
⑧苦しい立場、状況
⑪形見の品
⑫羽が回転して涼しい風を送る家電
⑭○○○○届けを出して結婚成立
⑮料理や家事を習う授業
⑱ハガキなら50円を貼ります
㉑百→千→○○

ヨコのカギ

①去年と来年の間
④ありのまま。○○○○な告白
⑦薬を与えること
⑨○○束、飛○○、翻○○
⑩ほぼ真北に位置する明るい星
⑫ビール瓶を開ける「○○抜き」
⑬銘文を刻んだ石のモニュメント
⑭とりかえっこ
⑯卵と牛乳で作るやわらかいデザート
⑰入門書、マニュアル=○○○書
⑲頼む人=○○○人
⑳夫のパートナー
㉒首の長い動物
㉓天草を煮詰めて作る和菓子の材料

○印に当たる言葉をうまく並べてください。

解答 □□□□ となります。

正解者の中から抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。
くわしい応募方法は、17ページをご覧ください。

6月号の解答と当選者

アメニウタエバ

（函館市）鈴木　麻代さん
（えりも町）菊池　早苗さん
（豊浦町）今田　隼人さん
（函館市）細木　雅夫さん
（稚内市）清田　和男さん

間違いさがし

間違いは6つです。

※右と左の絵には、6ヵ所の異なるところがあります。
さあ、見つけてください。（印刷のズレや汚れは関係ありません。）

※答えは17頁にあります。

浜の家族物語

【桑野さんご一家】桑野純さん（37歳）麻記子さん（33歳）心晴（こはる）ちゃん（7歳）航汰（こうた）くん（5歳）
瑞姫（みずき）ちゃん（1歳9ヶ月）　※純さんのご両親　和男さんと裕子さんと一緒に

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介します。今回は、歯舞漁協の桑野さんご一家です。

昆布は家族みんなで出来るのも魅力

桑野純さんは厚岸水産高校を卒業後、漁師になって19年になります。夏は昆布漁とえび漁に従事し、冬は父和男さんがうに漁を、純さんは斜里町にある製糖工場で働いています。毎年6月から父と二人で昆布漁に出る純さんは「昆布は奥が深い」と感じています。「父は昆布がある場所もよく知っているし、少ないところでもうまく棹にかけて採ってくるからすごいと思う。今でも教わりたいことがいっぱいある。」と教えてくれました。

純さんが思う漁師の魅力は、自分の努力したことが結果として目に見えること。最近は地道な作業の拾い昆布にも精を出します。また、大きくなってきた子ども達が昆布干しを手伝ってくれるようになり、「昆布は家族みんなで出来るのも魅力かな」と笑顔で話します。「嫁さんも頑張ってくれるし、親も一緒にいてくれるから助かる。」と、応援してくれている家族にいつも感謝しています。

漁師をしている間に自分の船を新造したい

相手の良いところについて聞いてみると、お互いに「一生懸命なところ」と答えてくれた桑野さんご夫婦。根室市内出身の麻記子さんは、嫁いできてから本格的に昆布の仕事を経験しました。「子ども達のことが優先で、この9年、自分が満足できる手伝いにはまだまだです。」と話しながらも、子ども達が寝ている時間や、時には日中に子ども達を背負いながら昆布を干してきました。瑞姫ちゃんが保育園に通う来年からは、また精力的に手伝っていく予定です。

長女の心晴ちゃんは手先が器用で、絵や工作が得意な小学2年生。1年生の時から絵のコンクールで入賞もしています。長男の航汰くんは家族で一番お祭りが好きな年長さん。集落の小学2年生以上の子どもたちだけが舞う獅子舞を特に楽しみにしているそうです。そして、もうすぐ2歳になる元気いっぱいの次女瑞姫ちゃんが家族の輪の中心にいて、桑野家はいつも賑やかです。

今後の目標を「漁師をやっているうちに自分の新しい船を作りたいね。」と話す純さん。6月の昆布漁とえび漁解禁とともに本格的な沖仕事のシーズンが始まりました。

なみまるインフォメーション

「道ぎょれん会 お取引先懇談会」が開催

生産量回復と安定流通に向けた取組強化をアピール

5月31日（木）、札幌市のロイトン札幌において、ぎょれん主催による「道ぎょれん会　お取引先懇談会」が開催され、全国の取引先179社、259名が参加しました。

冒頭、櫻庭会長よりあいさつがあり、「昨年は震災により北海道も漁業被害を受け、さらにＴＰＰ貿易問題、燃油の免税廃止問題など、次々と重要案件に直面した年だった。基幹魚種である秋鮭・ほたて・昆布を中心に全道の漁業生産量も減産となり、関係者の皆様には原料確保や製品の安定供給などの面で、なにかとご不自由をお掛けした。今後は関係行政機関などの協力も得て生産回復に向けた取り組みを強化していきたい。」と述べました。また、「歴史的な超円高、製品価格の上昇、放射性物質の風評被害の影響により海外輸出が減少し、従来以上に国内での消費拡大が重要となっている。浜と一体となった各種消費拡大事業と流通対策に一層努力していく。ご理解とご支援をお願いしたい。」との述べ、参加した各社と一層の協力関係を築いていくことを強調しました。

続いて、西副会長より「本道の漁業・生産状況」と題した基調報告がありました。基幹魚種であり、昨年減産した秋鮭・ほたて・昆布については、生産回復に向けた具体的な方策が示されるとともに、「震災による本道漁業被害からの復旧・復興には目処がついた。道産水産物の放射性物質のモニタリング調査は、国や道、ぎょれん独自の検査でも検出限界未満であり、安心な水産物を提供できる。」と述べ、道産水産物の安全性をあらためてアピールしました。

その後、特別講演として、プロゴルファーで作家の坂田信弘さんが講演を行いました。坂田さんは、世界に通用するトップゴルファーを育てるためにはジュニアからの育成が大切と考え、自ら「坂田ジュニアゴルフ塾」を無償で運営しています。講演では、経済的に恵まれないなか、ゴルフが好きでひたすら練習に打ち込み、やがてはプロになった札幌出身の本多弥麗（ほんだみやり）さんのエピソードが紹介されました。「私は子どもたちの力を信じている。ヘタだけれど一生懸命やれば夢がかなう。」とした内容は、参加した多くの方の感動を誘いました。

同会は、引き続き懇親会が行われ、翌日のゴルフ大会と併せて懇親を深める充実した2日間となりました。

開会のあいさつをする櫻庭会長

西副会長からは、本道の漁業動向について
詳細な報告がありました。

特別講演を行っていただいた坂田信弘さん。
懇親会では、ゴルフが上達するコツを披露してくれました。

留萌管内お魚普及協議会が料理教室、お魚フェアーを開催

旭川市民に向けて留萌管内のお魚をPR

6月1日（金）、旭川市にあるクリーンライフプラザで、留萌管内お魚普及協議会が平成24年度第1回料理教室を開催し、おいしい管内の魚をＰＲしました。今回は、北るもい漁協羽幌地区女性部の5名が講師を務め、旭川市内のホクレンショップを通じて募集した主婦24名が参加しました。参加者はえびやほたての殻むきを教わりながら、管内で獲れたばかりの新鮮な魚介類を使い「えびと野菜の中華炒め」、「ほたての卵とじ」など4品を作りました。また、浜のお母さんが残ったほたての耳やえびの頭を使ってその場で「ほたてのマリネ」と「えび汁」を調理。短時間で手軽にできるおいしい料理は参加した皆さんに好評でした。

2日（土）と3日（日）には、遠別漁協女性部も加わって、旭川市内のホクレンショップ2店舗（北部店・豊岡店）でお魚フェアーを行い、管内特産のなんばんえびやほたて、たこ足や加工品を販売しました。旭川市民の皆さんには、留萌のお魚のファンが増えており、鮮魚コーナーの前には開店前から長蛇の列が出来始め、開店わずか1時間で鮮魚類が売り切れました。売り子を務めた浜のお母さんたちの元気な掛け声も響き渡る中、ブースには連日多くのお客様が詰めかけ、フェアーも大盛況で終わりました。

えびの頭を使った特製えび汁が参加者に
振る舞われました

鮮魚を求める多くのお客様で賑わう売り場
（豊岡店にて）

日高地区女性部が「第28回 北海道産品取引商談会」に参加

「ヤマノカミ」を使った加工品を流通バイヤーに売り込み

6月5日（火）、6日（水）の2日間、札幌市のロイトン札幌にて、北海道と札幌市、社団法人北海道貿易物産振興会が主催する「第28回北海道産品取引商談会」が開催され、日高地区女性部が「ヤマノカミ（鬼かじか）」を使った加工品の展示・試食を行い、売り込みを図りました。「ヤマノカミ」は、この時期ばばがれいの刺し網に混獲されることが多く、製品として利用されることの少ない魚、いわゆる「未利用魚種」のひとつです。価値のつかない魚を網からはずす漁師さんの苦労を見ていた女性部が「加工することで価値を付けて、少しでも漁師さんの助けになれば。」と、商品開発に向けて様々な工夫を重ねてきました。

今回の出展品は、既に製品化され札幌駅にあるどさんこプラザでの販売実績もある「ヤマノカミの昆布巻」と、試作段階の「ヤマノカミのとも和え」の2品。来場者の多くは、全国から集まった百貨店や生協、小売店のバイヤーさんとあり、ヤマノカミの名前の由来や取引条件について積極的な質問がなされ、味付けについて意見交換をする場面もありました。

「この展示会には初めて参加し緊張しましたが、少しずつ手ごたえを感じています。」と女性部の皆さん。今後もこうした機会を捉え、積極的に日高の水産物をアピールしていきたいと話してくれました。

日高昆布の一等検が使われたこだわりの「昆布巻」と、
昔から伝わる浜料理「とも和え」。どちらもおいしさ満点。

商談会に参加した日高地区女性部会長の
住岡操さん（右）と、川崎尚子さん

「昆布漁業に生きる ～北海道発 浜の男たちの情熱～」

昆布漁業に携わる各浜の取組を冊子で紹介

北海道昆布普及協議会では、昆布漁業者の努力と昆布の持つ奥深さを知ってもらおうと、全道の昆布生産に関わるリーダーを取材した冊子「昆布漁業に生きる ～北海道発 浜の男たちの情熱～」を発行しました。

地域によって、種類や歴史、生産方法も異なる昆布。昆布漁業にかける思いも含めて、各浜のリーダーが前浜の昆布について詳しく語る内容が一冊にまとめられています。この冊子は、6月より全道の昆布生産者、全道の漁協、全国の昆布業者、国・道の関係機関などに配布を行い、今後は、生協などの協力を得て消費者への配布も行っていく予定です。

この冊子を通じて、昆布には多くの手間と情熱がつまっていることを少しでも多くの方に知っていただき、昆布の消費が拡大されていくことを期待しています。

本件の問合せ先：ぎょれん営業企画部（電話011-281-8590）

浜のリーダーが語る内容が
一冊にまとめられた冊子「昆布漁業に生きる」

お中元には道産水産物を!

今年も「ゆうパック」をはじめとした、道産水産物の贈答向け販売を行っています。

お中元シーズンに向けて、今年もぎょれんではインターネットやお取引先のカタログ等を通じて、道産水産物の消費拡大に力を入れています。そのひとつ、郵便局の「ゆうパック」を使ったギフトも販売を開始しました。

「北海道　旬の夏」と書かれたカタログには、夏の贈答にぴったりな商品が24品掲載され、漬け魚や魚卵のほか、「漁協からの直送」と銘打ち、殻付ほたてや生うに、あさり、ほっき、真つぶ、あわびが、生産者の顔が見える商品として並んでいます。カタログは全道の郵便局で配布されており、そのまま郵便局の窓口で申込みが可能。8月3日（金）まで受付を行っています。

本件の問合せ先：ぎょれん加工食品部（電話011-281-8530）

お中元の季節になりました。
ぎょれんでは、今年もゆうパックをはじめ、
ギフト商戦に力を入れています。

選べる楽しさ12種類の昆布

消費者ニーズを反映した「一品昆布」の販売を開始しました。

北海道こんぶ消費拡大協議会では、消費者が昆布を購入する際に重要視するポイントや、昆布をどのようなお料理で使用しているのかなどについて、継続的にアンケート調査を行っています。その調査結果をもとに開発した新商品「一品昆布」の販売を開始しました。

アンケートで多く寄せられた「昆布の使い方が分からない」、「少量で買いやすい価格帯の昆布がほしい」といった声を反映し、「おでん用昆布」「煮魚用昆布」「炒めもの用昆布」など全12種類の使い方をそのまま商品名にし、小量パックにしたことが大きな特徴です。また、初心者でも簡単に調理ができるように詳しい調理方法も記載しました。現在は、ぎょれん販売新千歳空港店で試験販売を進め、今後は、その結果をもとに商品の拡販・改良につなげていく予定です。

本件の問合せ先：ぎょれん営業企画部（電話011-281-8590）

昆布を、さまざまなお料理に使用してもらうことを目指し、「カレー用昆布」や炊飯時に入れて使う「ごはん用昆布」などもラインナップ。

浜のほっとニュース

小樽	5月から始まった小女子漁は例年よりも1週間以上早く終漁しました。また余市や古宇郡では一時、ぶりの大漁に浜が沸きましたが、価格が下がってしまいました。一方、6月からはうにの水揚げが本格化し、6/11現在で数量は昨年の3割増、単価は1割増と好調を維持しています。いかの水揚げは1日に3,000c/sを超える地区も出てきており、小樽管内は夏の賑わいを見せつつあります。
桧山	6月1日よりいよいよ「いか釣り漁」が解禁になりました。今年度は水揚げペースが良く、型も25-40尾のものも多く上場している状況です。現在の主な漁場は瀬棚・久遠・上ノ国・奥尻地区になっています。今後、全地区において水揚げされるようになりますので、浜がますます活気づくことが期待されます。
函館	6月1日よりいよいよ「いか釣り漁」が解禁になり、浜は以前にも増して活気づいています。水揚げは昨年同時期と比べ順調で、今年度は成長が良いのか早い時期から30尾、40尾型も見られます。これから夏にかけて最盛期を迎えますが、浜がますます活気づくためにも「いか」の大漁を願っています。
室蘭	6月初旬、春定置の時鮭は3,000-5,000本/日と記録的な水揚げが続き、記録的な豊漁となりました。また、柳だこも、浜値がk@600前後と金額・量ともに好調を続けており、浜は活気づいています。管内の毛がに篭漁は、6月20日の噴火湾地区を皮切りに7月に太平洋地区も解禁となります。生産者の方々の安全操業と大漁を祈念しています。
日高	春定置漁は、漁期が残り1ヶ月と終盤です。時鮭の水揚げは昨年の2.5倍と好調を維持しています。また、6月下旬になり定置網での宗八の水揚げがまとまり始めました。多い時で50t/日と例年にはない状況です。一方、来月から始まる昆布漁に向け、各地で雑藻駆除・干場整備等が行われています。今年が天候に恵まれ、大漁になることを願っています。
釧路	漁期終盤を迎えた道東鮭鱒以西船は、低調な水揚げにより昨年実績を下回っています。鱒の単価は昨年を若干上回るものの、時鮭は昨年を大きく下回っています。残りの期間の安全操業を願っています。また6月からは棹前昆布漁が始まりました。この時期は霧の日も多く、出漁機会も少なくなりますが、当初の計画通りに出漁できるよう願っています。
根室	6月1日に解禁になった貝殻島棹前昆布漁は、18日現在、沖出日数は8回で操業ペースは順調ですが、着生は薄くあまり芳しくない状況です。前年の沖出日数は越えたものの、昨年は過去最低の大減産の年だったため、関係者の皆さんの今年にかける期待は大きいものです。18日からは製品検査も始まり、今、浜は活気に満ちています。
北見	6月に入り、当管内ではほっけの水揚げが好調です。紋別を中心に管内日産300ｔの水揚げが続きました。またほたての本操業、毛がにの水揚げが始まり、今後北海しまえび漁が開始されるなど、ますます漁は活気づきます。今後も漁の安全と大漁をお祈りしています。
稚内	6月も後半に入り、ようやく暖かい日が続くようになりました。管内ほたて漁は本格的な水揚げが続いており、このまま順調に推移することを期待しています。また、利尻・礼文では全地区でノナ漁が解禁され、管内の夏なまこ漁も始まりました。7月にはうに漁が全地区で解禁され、昆布漁も始まることから、夏の最盛期に向け安全操業で大漁となることを願っています。
留萌	真がれいの水揚げが昨年の163%（5月末累計）と連日好調です。今は、落ち着いてきましたが、管内合計で約1.0～1.5ｔ／日の水揚げが続いています。また平目も好調で、昨年対比209%（5月末累計）と金額も昨年を上回っている状況です。今月中旬から始まったなまこ・うに漁もこれから本格化しますので、今後の豊漁に期待しています。

㈱ぎょれん設計センターが住宅に関するベストアドバイス！

おまかせ設計センター

建物の改修工事についてご紹介します

詳しく取り上げて行きま～す

健康を保つために定期的な健康診断が必要なように、建物も定期的な手入れが必要です。少しでも長く快適に使用するためには、建物の状態を日頃から把握し、問題があった場合には早めに対処することが重要です。

今月は、ぎょれん設計センターが施工・設計・監理などさまざまな形で関わっている「建物の改修工事」についてご紹介します。

落石漁協事務所　外壁の改修の工事管理を行います。

外壁タイルの一部にひび割れが見られました。雨水の浸水とはがれ落ちが心配されるため、外壁タイルの改修工事を行うことが決まりました。これから工事に取り掛かります。

※当物件では、ぎょれん設計センターは工事監理を担当しています。

標津漁協事務所　去年の屋上改修に続き、現在外壁を改修中です。

外壁タイルが一部ひび割れ、はがれ落ちの心配がありました。詳しく調査した結果、ひび割れ部分から雨水が入りこみ、内装材に染みをつくっていることが判りました。現在、ひび割れ部分を中心に外壁タイルの改修工事を行っています。

落石漁協製氷施設　屋根と外壁の改修を行っています。

屋根材に穴が開き、外壁は固くなったコーキング（※）の隙間から雨水が入り込んでいました。現在、屋根材の取替えと、外壁の塗装工事をおこなっています。

コーキング（※）とは…建物の防水性・気密性を高めるため、目地や隙間を埋める充填材料のこと。例えば、外壁材のジョイント部分などに使われます。

浜の皆さんから「おうち」の疑問、質問、お悩みを募集しています。

宛　先：札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎょれん総務企画部広報担当
ＦＡＸ：011－242－3543
メール：info@gyoren.or.jp

建築・設計に関するご相談は
㈱ぎょれん設計センター
TEL：011－281－8509

浜だより

From Readers

今回も浜のほっとニュース楽しみにしていました。当地では6月1日からいか釣漁が解禁となり、浜も活気があります。生き生きしたいか刺しを食べられる日が来ます。皆で待ち望んでいます。各地でも美味の物を食す今が、旬の時です。漁に携わる方々の笑顔が素晴らしいですね。お互い健康で頑張りましょう。
（七飯町　清水　悦子さん）

先月からうに漁が始まりました。今年は実入りがよく、大漁を祈っています。
（小樽市　宮古　登美子さん）

雨降りだとお休みモードになってウトウトしてしまいます。しっかり休養して仕事に備えるためにもONとOFFを切り替えなくちゃ。
（豊浦町　竹島　美子さん）

春定置が終盤を迎えています。
（小樽市　宮古　知行さん）

こうなご漁も豊漁のうちに終わりました。近くの佃煮工場には古宇地区より入れています。浜では、たこ箱、刺し網漁、いか漁に切り替えています。朝6時に岸壁で大型定置が陸揚げしていた見事な「まぞい」20箱ほか多数、朝の…いい天気と見事な魚…浜ならではと感じています。今月はかもめーるでの浜だよりでした。
（島牧村　泉谷　泰三さん）

6月1日より函館はいかが始まったようで、美味しいいか刺しが食べられるように、豊漁を願って楽しみにしております。漁師さん頑張ってください。
（函館市　鈴木　麻代さん）

6月に入っても寒い日が続いています。浜も漁が無く、いつもなら出面（でめん）さんで活気づいているはずなのですが、今年は静かな毎日です。うに漁も2週間出ていません。今月いっぱいなのですが、これから何回出漁できるのか不安です。それでも水温が低かったせいか、昆布の成長が良く、繁茂状況が最高です。頑張ります。
（羅臼町　山根　瑞恵さん）

もうすぐ棹前昆布。頑張ります。
（浜中町　板垣　沙都子さん）

編集後記～担当者から～

広報の仕事をきっかけとして写真を撮る面白さに目覚めました。「これだ」と思う一瞬を逃さず撮れたときは最高です。「浜だより」のコーナーでは、新たに皆さんからの写真やイラストを募集します。これまで通り、お便りもお待ちしていますよ。どしどしお寄せください！
（工藤）

6月22日（金）に組合長会議50周年記念事業「ラジオ広報活動」の収録を取材しました。今回は、柳谷釧勝地区会長（白糠漁協）が組合長会議の取組みや管内漁業、資源管理型漁業の重要性などを語りました。どんな番組に仕上がっているのか楽しみです。
（櫻田）

10ページの間違いさがしの答え

来月号から、お便りに加えて写真やイラストの募集も始めます

編集部では、皆さんからのホットな浜の話題を募集しています。「お便り」での投稿はもちろん、新たに「写真」や「イラスト」での投稿もお待ちしています。皆さんが「これだ！」と思う話題をぜひお寄せください。

10ページの「クロスワードパズル」の解答も同じ宛先です。
「浜だより」への投稿または広報誌へのご意見・住所・氏名・年齢を明記のうえ、下のいずれかの方法でご応募ください。

〈宛先〉7月20日までにお送りください。
（郵便）〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎょれん 総務企画部 広報担当
（FAX）011（242）3543
（電子メール）info@gyoren.or.jp

※ご応募いただいた方の個人情報は、クロスワードパズル当選者への図書カード進呈と、広報なみまるくん「浜だより」のお便り、写真、イラスト等の掲載（氏名、市町村名）にのみ使用いたします。　※お寄せいただいた写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

仲間と確認　安全操業　誓う心の　ライフジャケット
（社）北海道漁船海難防止・水難救済センター

なみまるくん 2012 July No.285 平成24年7月1日発行（毎月1日発行） 発行／北海道漁業協同組合連合会 札幌市中央区北3条西7丁目 編集／総務企画部 広報担当 TEL.(011)281-8665 URL http://www.gyoren.or.jp 印刷／佐藤印刷株式会社

なるほど!簡単!

浜料理

たこザンギ

一気に揚げるのが硬くならないコツ

今回は「たこザンギ」をご紹介します。ゆでだこの足をじっくりたれに漬け込み下味をつけます。「ザンギ」ならではの豊かな風味と、たこの程よい歯ごたえを味わえます。じんわり揚げるとタコが硬くなるので、180℃の油で一気に揚げるのがコツです！

レシピ

【材料】（4人分）

- ゆでだこ（足）…4本（大きさによって変わります）
- 片栗粉…1カップ
- サラダ油…適量
- しょうゆ（昆布しょうゆ）…大さじ5
- とき卵…1個
- ごま油…少々
- 生姜のしぼり汁…少々

Ⓐ

【作り方】

1. たこ足は1口大に切り、食べやすいように数カ所に切れ目を入れておく。
2. ボールにAを全て混ぜいれ、その中に①のたこを入れて30分ほど漬けておく。
3. ②のたこに片栗粉をからめて、180℃の油で一気に揚げたら出来上がり。

白糠漁協
桧森千枝子さん

道産間伐材使用
間伐で未来につなぐ北の森
本書の本文用紙は原料の一部に道産間伐材を使用しております。
ぎょれん
北の魚情報がぎっしり!北海道ぎょれんウェブサイト
www.gyoren.or.jp